

門へ 13
 號 3243
 卷 2

平松町
 本惣
 誦訪多

賣池郎 卷之三

○七回 へろりくもの

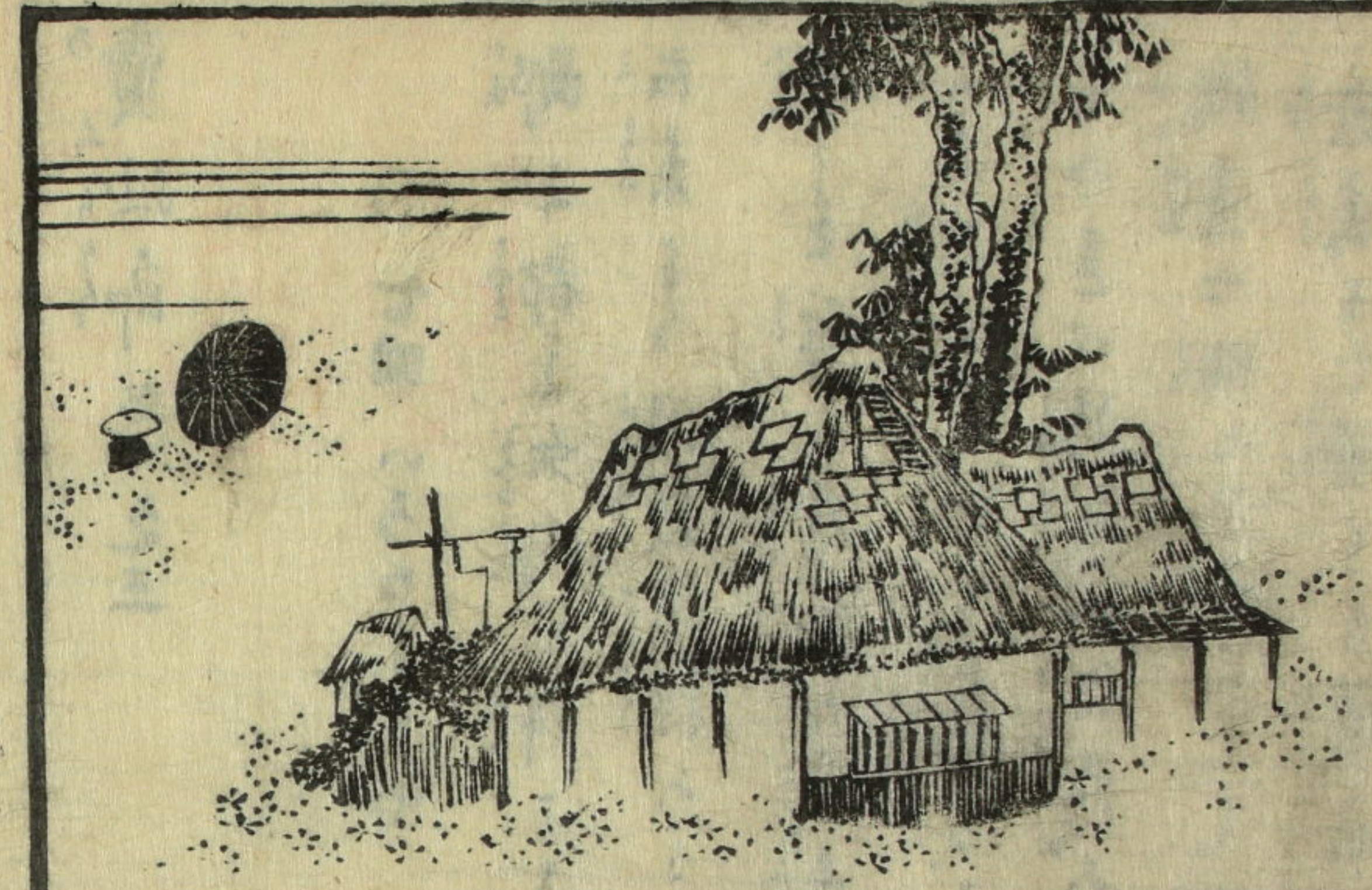
郵に都の女問と評さきハ美の罪平の功ハ小し也。
 左末より風般清探ある名妓世に多かる中清の清
 原をも評は務まなれ。貴姓の余を清ハ石とよやと
 らんおふし。かこの方さハバ。多とバ。行事よやとら
 又やとバ。勝宗の台昂。あまこの遊女。幫同まど引つれて
 踏青のぬるさと又えて。一個の了。髪。まどけぬく。笑ひて
 迹あると。進くる。幫同。あま。バ。と。うら。け。て。人。が。後

浪遠

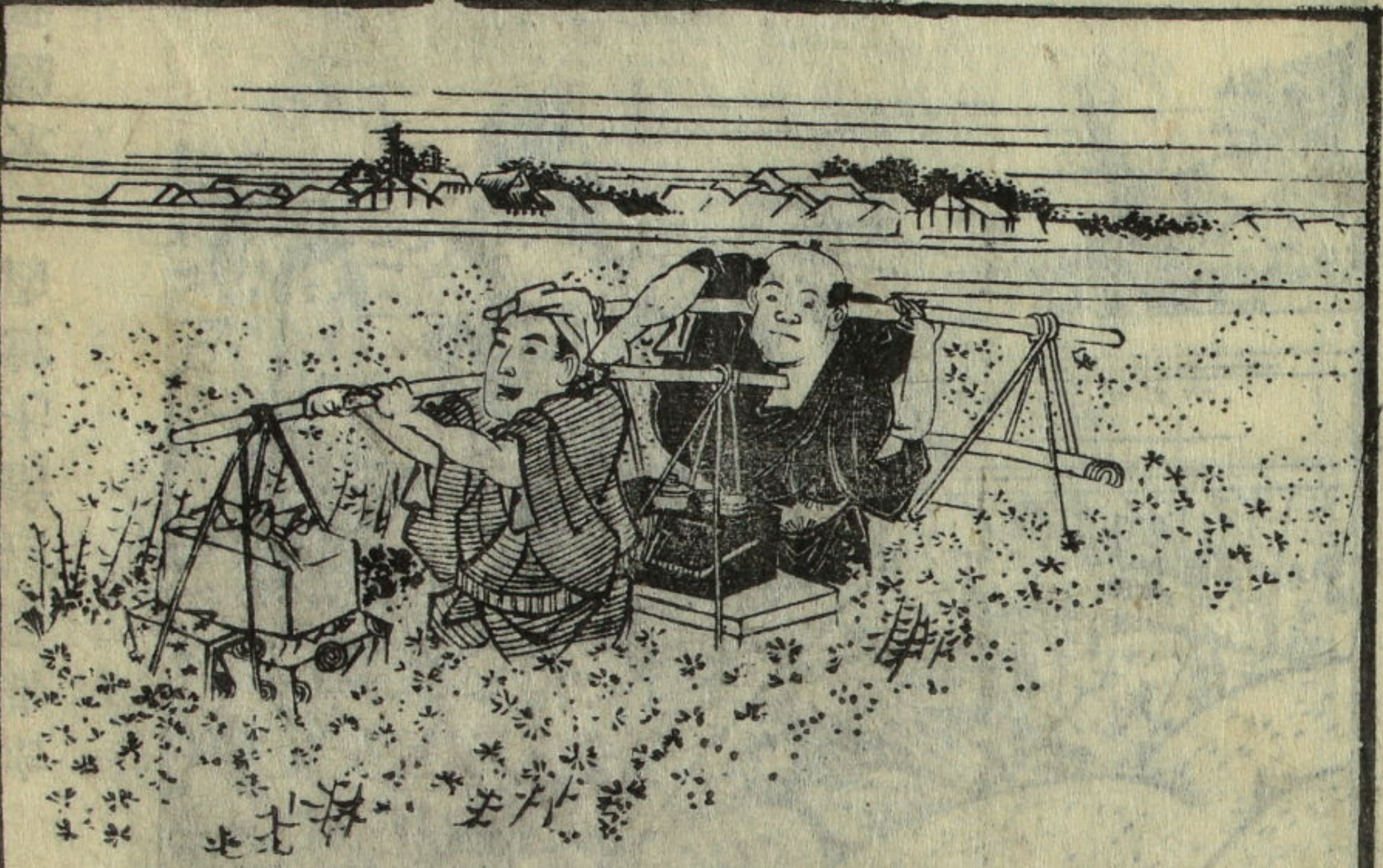
芝屋之史

遺話

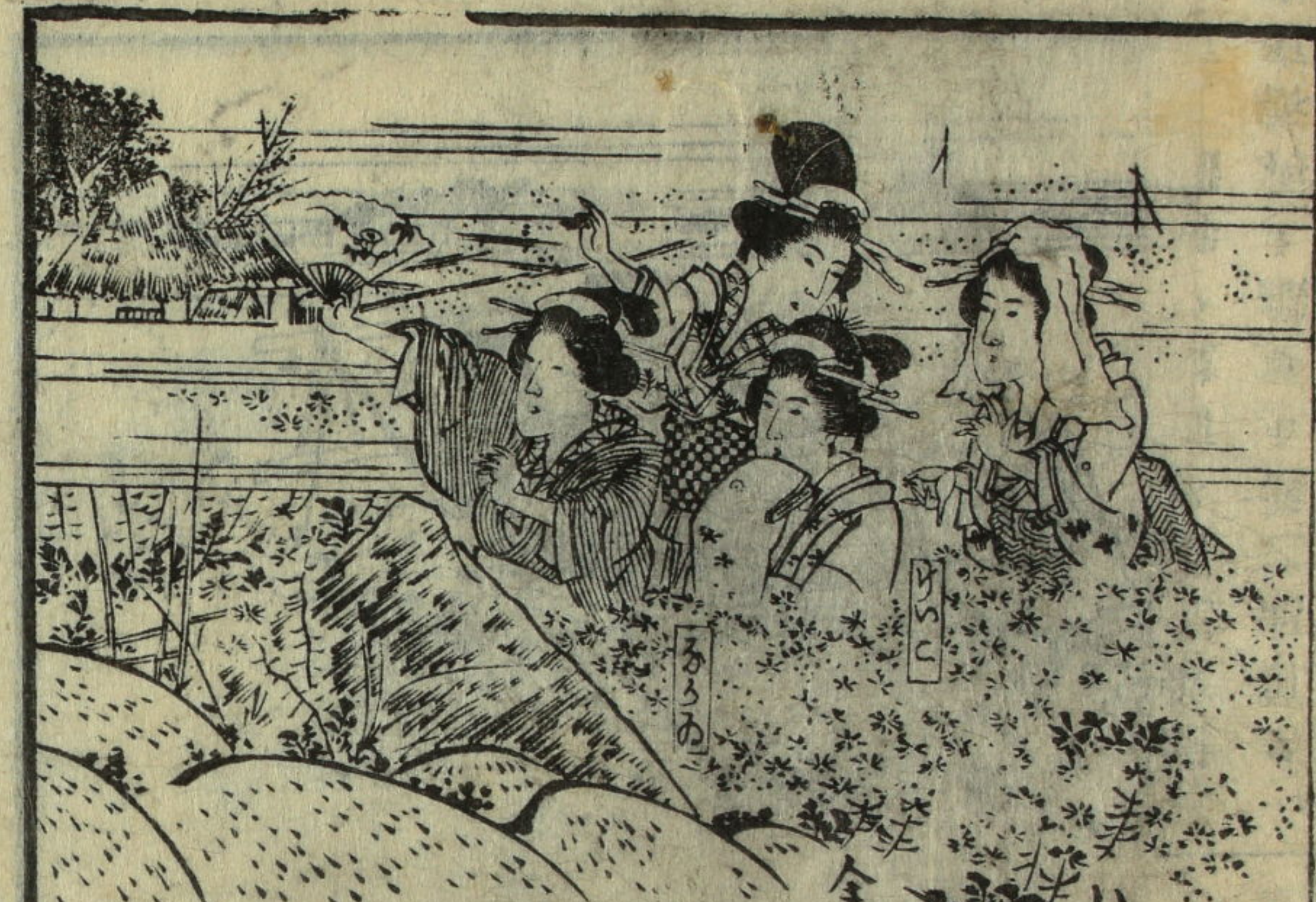
昭和
 七
 九
 日
 購



の頃と、ちまうらぐりも、祝いのころ
 男女ありかの余を、御い
 たましく、折雲の話し、はげしく
 ぐうぐう廓の水を、飲ね、は
 張とまうらぐり、る、戯き、ぶとい
 狂人なる、うらたもの、あき
 まは、く、またく、さも、せ、ま、え、ろ、う
 ちま、居、く、く、ま、へ、と、た
 まで、は、ろ、ぐ、そ、が、中、は、一、條、と、い
 えて、髪、を、髪、世、に、双、び



うさ、婦人、うら、その、あ、拾、ハ
 或、国、む、ら、さ、さ、よ、條、たる、た、や
 う、い、さ、よ、向、む、く、の、中、さ、と
 い、く、ら、も、か、さ、ね、屋、殿、の、帯、う
 づ、だ、う、よ、む、と、ひ、袱、捐、の、さ、し
 も、の、あ、ご、や、ら、よ、向、孫、の、相、子
 かけ、た、ち、松、の、唐、の、お、一、妃
 と、倭、風、よ、う、つ、を、も、お、い、ら、な、こ
 く、も、え、高、美、の、奶、が、も
 いく、ん、風、姿、さ、ま、し、の、裳、よ、く、れ



ぬるの脚布のひとゆ
 竹巻の中は盛と又と女
 八 惟月小し志らるる
 余を掛はれとあぐで不みみの
 女とえて。忽ち精神と
 奪はまされてもかく事
 わどやうるう女。世よのあり
 けものうと怪とつら思はず
 空橋をふなひてらうと
 かの一舞の夜ともとめて慕



八

八



かきぬ當下形、わさる日、西山は没し。東寺の入相、
 池よりさてもおぼろしく、小きくく、彼婦女、
 おと置としいくま、風のそよぎ、柳のまねく出、
 大門と弑て、袴のたへ入、通筋とわけて揚、
 の角亭、おろぐらへ、遠入るま、余を、
 こゝかの女の、おめらんと、内のやとと、
 廳とらびやうふして、かたはら、一叢の竹と、
 火のやくところ、幾間とし、座、
 かましく、美よ、様との、
 一。余を、廓とい、また、

住居ぞと、火いよあや、
 おして、春、
 空後と、
 と、
 もと、
 擔と、
 せと、

あういハ因つそりきバ。因一杯とかたふけ。兼管ハ人
時ノ奥ノまどで亭主と母びて。ぬ酒ハ何さうも酒
そへて。あたへよと。よまうせて。湯煮のを腐
たると。二三杯りて。相酒番ともら。ま
おけ大門の中ハ竹とりやと向。亭主
おまもり。仲方どのハ乱舞人う。都
の花街とありま。どや。こまたハ何
かまバ。余を街こまが。おハけふハ
らふ。うと。孫とらうて。たあらバ。先
らら交。操の花とかたけ。唄ひつと
け門入

中ハ深窓の衣振。向深の帽子と。眞
の花女さう。向。亭主類。顔とよ
女とあり。ど。と。人。傍。老。板。お
居。る。ぞ。子。こと。めて。ま。ハ。今。け。廓。ノ。名。を。括。衣
の吾妻路。太。ま。して。と。ど。う。ハ。浪。花。の。新。所。も。全。堂。の。夕
え。り。一。の。夏。屋。の。吾。妻。を。ま。が。妹。女。お。し。て。花。街。を。ま
といひて。姉。女。房。の。あ。づ。ま。ふ。し。若。ど。る。出。名。の。門。出。る。ま
名。と。ハ。吾。妻。路。と。呼。び。け。廓。ノ。名。を。一。一。へ。昔。の。名
大。橋。ま。ど。不。ぼ。ぐ。近。以。の。出。色。的。し。て。ま。ら。ふ。と。不。く
か。し。傳。と。亭。主。と。出。名。の。門。出。る。ま。銭。さ。う。さ。う。

うらぶらぶ入道いふもやといふづいやとよ今細く
 こまごよりとこ。店と後とめたるふぐりハ長板下
 錢掛室所の梅屋大盡。出名と共ニ嵐山の方
 として竹葉七挺とつらう。け門と出り後より。帯同
 保児危。小三枚。兩三個と連て。毛道行厨ぶろ。た包
 るど翁。りて出りの。日常小薬箱のそまたる。これ
 だ。江戸へおきおたり。後と。そ人おとる。歩けを
 ぐーぞ。梅屋大と。は。どりて。えと。さめて
 男と。か。り。い。の。非。七。旬。小。あ。まる。老。人。よ。て。あ。り。ゆ。と。お。い
 余を。濁。け。と。ろ。ー。と。や。と。ん。中。よ。か。り。ゆ。ぬ。ハ。被。屋。入。の

け。取。の。花。女。よ。る。ま。さ。あ。ら。い。高。さ。様。一。さ。よ。り。は。ら。す。價
 だ。よ。出。こ。ハ。一。枚。の。屋。こ。ハ。叶。入。べ。一。且。け。里。の。板。位。と。も。と
 ろん。よ。い。く。む。くの。金。よ。と。事。た。る。や。と。同。人。亭。主。の。し。お
 ハ。使。方。ど。の。ハ。吾。妻。路。を。ま。さ。だ。十。分。の。料。を。よ。ま。よ。い。關。客
 と。お。ら。ま。不。し。く。お。も。ハ。り。お。彼。を。ま。ハ。を。以。の。ぬ。け。も。の。を
 一。日。一。枚。の。花。袋。よ。ろ。づ。の。費。と。り。け。て。價。七。十。九。目。に。定。る
 し。一。へ。ど。も。わ。づ。ま。ち。を。ま。と。揚。る。よ。離。妓。三。人。と。付。る。の。へ
 佐。の。花。女。よ。い。余。後。ろ。た。い。き。し。又。か。ま。し。ぬ。う。て。ま。よ。の
 ろ。に。ま。う。ご。り。なる。ハ。孤。老。の。屋。を。は。し。後。ゆ。ま。を。よ。ま。よ
 ど。し。も。致。妓。三。四。輩。よ。帯。同。一。兩。個。と。ま。ね。と。花。袋。の

余ふんも、囊の中よふとめすば、^し遺さうりし、^い衣たしのしり
その本後^{ほんご}しのよていある合す。且^ま休^{やす}後^ごの羽^う織^およ^ととふ
の着^きもの^は、^い衣たしの^し中^{ちゆう}まら^りその^しの^ゆ付^け、^しし^の感^{かん}の^ち幸^{さい}
禱^{いのり}ふも加^か賀^が指^さの^し切^き支^し金^{きん}目^め費^ひの^し腰^{こし}扱^あと^さめ^れば、^不都^と
合^あぬ^ちつ^て入^いび^ぬ三十^{さんじゅう}金^{きん}の^いろ^うん^ん照^{てい}さ^ねハ^い出^で名^な、^い向^{むか}
ま^ず、^し衣^い敷^し腰^{こし}扱^あハ^損料^{しんりょう}、^しし^とも^も、^十金^{じゅうきん}と^費費^{ひひ}と
ま^ハ一^{いつ}枚^{まい}の^し樂^{らく}ハ^いま^りが^こし^と、^げて^え入^いる^らん^ん然^{しか}ら
分^{ぶん}限^{げん}、^しお^ほつ^つふ^ふと^幸幸^{さいさい}ち^ちの^い價^げも^い任^まり^身身^みね
ら^ば一^{いつ}生^{せい}の^しま^り一^{いつ}づ^つよ、^し一^{いつ}枚^{まい}ハ^しし^とう^んと^ふり^ひて^守守^{まも}ね
た^らよ^と、^おお^おい、^い噴^{ふん}た^ら酒^{しゅ}飯^{はん}の^あい^と拂^はり^て、^入握^{にぎ}と^あ

て^まま^まら^ら、^しし^とご^うあ^りひ^らる^や、^し世^よの中^{ちゆう}よ、^おの^ち
う^うう^う標^{ひょう}致^ち、^し女^{にょ}行^{ぎやう}必^{ひつ}と^なら^ね、^しし^とい^はる^も、^いう^でり^再再^{さいさい}
え^る幸^{さい}あ^らん^や、^しな^らふ^しび^をハ、^天天^{てん}を^と拵^{ぢゆう}女^{にょ}と^おい^て、
五^ご人^{にん}の^し願^{ねが}え^しの^しと^をと、^指指^さ王^{おう}致^ち甚^{じん}せ^し、^し又^{また}い^そう^よ
笑^{わら}ひ^て、^し彼^かも^一一^{いち}標^{ひょう}院^{いん}の^者者^{もの}と^おら^どん^ぱお^のま^ごと^た、^ま
つ^しと、^し他^た愛^{あい}の^身身^みが^し、^し今^{いま}日^{にち}の^どく、^眼眼^{がん}よ^福福^{ふく}う^しの
ま^るべ^を、^し人^{にん}同^{どう}の^し命^{いのち}救^{きう}一^{いち}差^さの^どし^と、^しし^から^ハ、^し
笑^{わら}婦^ぶと、^し一^{いつ}枚^{まい}と^内内^{うち}と^ハ、^し嗟^さふ^死死^しる^も、^し幸^{さい}ハ^いひ^まら^じ
し、^おあ^りひ^づけ^つ、^し我^{われ}方^{かた}の^あり^とま^まと^うつ^り、^し
他^たと^いひ^さま^さて、^し終^{しゆう}日^{にち}ち^うら^とを^そせ^ども、^し二^に百^{ひやく}文^{ぶん}の^し利^り分^{ぶん}と

豊由 卍

得ることゝ一鳴半路致はよあらず山ふらうす
 同半霞のくろしといへよ宿世の因縁よ
 ちうべーといふらごちてりしころが
 きこつらしと世のあまことまよ
 おもへば始まづーと
 後富そのふまを
 榮もよほろ
 たるもゆ
 るふはんの
 養にまて



食ともと
 いろむ
 あつうい
 ちうまば千金の
 富もこの世のほと
 あまば。千金は得るに
 通るさ事やめらん
 舟からなよ。問つこい
 口の中はけふか

物狂ハ一とおもひしにも、往々かく紙をむ山崎へ送りて、
 終代事なく一とよかの金と積べと。思案をかこね
 けまとも。京来もづこの奉後をも生まともどりめなるを
 小一のまきの十全に依て盛りの地君と標人として思
 ところをハ。雙がさるる花の指とまねんとするは似と
 まども。忽ち一つの計事をかひひ出し。京あさよりを
 蓋の事とよぶと彼の利がと積とくハ。偷ハ一日。二
 後月のすうけあるとまハ。一法目と除て。その日の費用は
 まととまハ。一年は三百六十日ふして二年は及びて十金
 員ハ余もり。防く幸ひの設めらば。一年およしてもそを

遠る事あらんと公を定む。さあハひともの。彼吾妻
 路が面敷の才よ。流ふうとかひひわこつて。お五日より
 化ふかとうつとぞ。生えとこのと採ざかるぞとかくは
 意不。いやまこつて。いりんとも。千奉通より。小井の方へ
 行あし。も。う。う。くと。花街のうらへひ。う。ま。て。揚屋町ハ
 いた。ま。長。ね。下。の。う。う。と。ひ。と。ま。の。吾。妻。路。が。宿。と。の。ま。
 お。り。ひ。あ。ま。り。事。ま。ま。ハ。か。の。門。辺。と。裁。度。々。行。か。ん。て
 内。と。家。が。よ。よ。ふ。ふ。と。小。て。其。身。と。咎。々。廓。の。中。と。あ。ら
 ふ。ら。と。行。止。る。よ。入。り。と。り。て。使。と。買。に。價。や。と。う。う。と
 格。別。よ。い。う。能。く。ハ。家。毎。よ。吹。雁。し。て。ふ。と。商。ひ

賣油良 卷之三

行く出来たりやうふり後ハ長ね下も花まとか
 まハ合家も大に必易くありて后ハハらづま路
 親方ハ格致屋ぬる幸とも知て大にね臨原の素
 肉もお不へ。是より各日ハハ廊と魚とてたましくあつ
 ま修治道中の養小して整るるをえる日ハ又一層の
 おもいと係て一とせ余の春秋とをどすうふおりのと
 いる。つとさずして毎日の初分と。字櫃とたぐハたる
 員敷と。安るる。歩金一兩五分。碎銀二百八十圓。丁銀
 四拾二貫文余とありける。是と小判ハはかりて。十兩ハハ
 余。是のまバ院ハおりのと晴す。時よりぬと。雀踊して

よろこびぬ

〇八回たぐくまきもの

余を衛つらし。おりのやう。廊ハ一取の格。真ハ公のま
 ぬまどる。我。身生。周ハの。公と。おだね。世の交り。こへ
 うとく。まいて。張女。後。妓と。へ求。めたる。幸。あらぬ。ハ。おと
 さら。揚屋の。張。さ。ハ。お。る。づ。う。も。あ。ら。ず。た。と。へ。安。と。あ。ど
 やう。お。拾。十。分。孤。老。と。え。と。る。も。席。上。の。お。も。ひ。だ。り
 園中。の。志。こ。ま。し。一。向。ハ。え。お。たる。幸。も。あ。ら。ぬ。ハ。真。の
 たの。し。お。く。入。廊。の。もの。よ。あ。い。め。ら。う。せ。ら。と。て。ハ。一。ま。の
 辛。苦。い。ま。し。から。ん。龍。の。格。け。伝。す。二。聖。の。ら。こ。う。



年よ一おまをども、千秋たつとむうどんげの光の程
 く、我々の縁よ一の暁の鐘とかざりとし、再考をらん
 計るごとし。一おと千代のたつし、ねまべ、且、孤老の
 かもひととままびたるよ、廓にゆくべしと思ふ。或
 定ぬ誰々の御南と教へ、け制度と志らん、や、エ未と
 こら、一々るが、たちまらふと、撲地やて、そとよ、一、儀所
 の宗菴老ハ、醫女業とせざるを、いと幸と、一、て、けに
 高原よ、輝の名たうし、け人として、揚屋の、教と、向あき
 らりんと、要とま、宗菴方よ、いたりて、案内と、りよ、宗菴の
 病害と、心づ、まづ、外殿へ、通し、足下、ふ、の時、来、ふ、ても



皇代通記

我動一たすよ外と同よ。たよあらず。私今日推業世
 一ハ、P出とも取ハ、一々もど。生涯のわく、野のさめ
 傳原のね位と。一お求とこ存念ふまども。花の
 及とまう。ぎ。生よハ花街の妙な究たまふとこ
 及びともバ、廊の制度、市相傳よあつう。度、何ふと
 せしといんざんよ。迷とこハ、家菴大ひよ笑ひて。こも
 一松らうある。花風流いてんくとおし。ハ、ふも
 花ひの、花。あらなく。あへまいらせてう。廊中へいごま
 べしと。よ迷よ。許諾けま。余ま清力。ハ、は。こあらバ
 拵校をのあづま路と。買せう。まとあるよ。家菴大ひに

あとましうど。笑ひを包ていふや。彼も何一拵君お
 まども。當世の出まの的。と。出名の守えあま。ハ、字うの
 價ふてハ、許さず。と。あしつうならバ。他のを笑よても。よ
 かるべしといへバ。余ま清頭とおう。ふまさらよ。他の
 拵女よ念ふし。たごかの吾妻路ともとりて。一おの教系と
 そし度念致うと。と。あハ、ち價のまをま。兼て。ま
 かり。圓金十二三金ハ。花ハ、ありと。字て。家菴のうら
 お推するやうハ。おハ、渠賣くのたけよ。廊へ回と。彼
 及中の懸形をえて。急相せしものならん。愛は。ア、の
 有限とも。毎へど。出名二まきあつま。路といども。まし。

あつたの月も、様よ似たる魚うさふいりほどお教
 とも。彼を買ほてうま。巫山の夢と後と後とことか
 一く。漂葉なる事とと一へ。魔ものよせハ一
 たのしそなりとおひいて。詩ユとにり。とバりの執心
 目初會の制度と傳へべ。記債書とまゝめり
 机の上の紙ととり添てあたへる。余も湯ハ講で
 一く。小。是と字とめて書付ぐる。宗卷ハ転びとる
 志ていらく。見孤老はドめて揚屋よいたとバ。火車保兜
 玉筆と墨よのせ捧出。ほいて化の女般と遊くりよこ
 びて。酒ととむ。孤老完ホとして。玉筆ととり砂しめ



讀由 宗庵

因知己のたつねとバ。其玉筆と火車よあつてお
 青樓とドリての鬼まよハ。哥妓三四個も招きよ
 孤老も繕まし。妓妓を小けけバ。おのく三法と強て
 教と唄ふ。その曲の終る時。一段をあげて。ぬくと
 讀るをよびの別なう。表又定まるとハ。廊中ハ
 木立と。集て一段まし。其紙と定むをよ。是下
 よハ。あづま路と。入差のあまバ。そをま来る時。火車
 孤老も引あはせて。玉筆ハ。巻もよ。をまの前の
 け。敵と。うこま。洒ま。ひとま。バ。をま。もの。おま。ね。ひ
 して。歪。小。を。火車。と。つて。孤老。の。あ。へ。お。く。その

玉筆と。つて。三度。いた。ぐ。外。て。候。ぐ。初。の。礼。義。を。ん
 大廳。ハ。く。か。く。よ。ん。お。ぐ。あ。そ。ぶ。べ。し。性。急。ぬ。る。ハ。圍
 い。そ。ど。と。ろ。う。と。え。え。て。大。よ。は。と。ま。し。孤老。の。威
 勢。え。せん。ハ。幫。間。二。三。個。と。ま。ね。え。向。う。ら。産。と。多
 て。か。ま。よ。礼。と。調。へ。と。よ。は。ら。足。下。ぬ。ら。バ。山。哥。の。竹。町
 某。の。牙。房。油。防。余。を。周。ぬ。る。もの。と。述。て。囊。中。と。い
 ら。そ。金。百。足。づ。の。お。と。う。つ。て。相。識。と。ぬ。る。お。其。外
 の。産。配。ハ。候。後。後。よ。よ。ま。バ。書。き。う。と。し。も。一。つ
 あ。ま。バ。や。つ。つ。ま。休。ひ。て。透。向。と。や。う。あ。ま。り。入。へ。し。お
 圍。中。の。ま。こ。ね。ハ。大。よ。秘。事。あ。つ。て。出。ッ。ハ。ぬ。え。

りくの日相傳せん。まづき拵び初雲の大いねハ、かくの
 通るまうとる麻ものよとべと屋まよて、似兼まき
 事と危まどくには交せて教けまども、余を周ハ文に
 あり、一車とハ公にうど、そのまじ、一ノ扇面は出
 とぐり、まど、周中の秘事、なとづららば、早速又引つま
 流ハるべしと、托を、とて、意用の、公はと、尋ねまば、當
 世の大それ、風なるらば、と、云、羽織も、黄張内の大捲、又、振
 振るべし、中忌と、常ハ見斗ら、い、小ねし、操、紐ハ、こら、ハ
 ねる、羽、金、促、ま、る、ま、よ、い、ら、ら、と、是、又、又、風、なる、ぬ、と
 か、一、へ、ま、ど、ま、ど、ま、ま、の、に、と、る、ぞ、勝、ま、し、と、余、を、漸、男、に

前年、煮賣の亭主が語たると、今の指家といハ、大それ
 の風俗、お日ひ、又、や、う、ま、ま、ども、宗、菴、が、お、一、へ、通、る
 と、今、孫、ま、ら、ん、と、信、ト、い、ま、う、も、う、と、ぐ、ハ、で、余、を、坊、ハ
 厚く、礼、と、の、べ、ゆ、夕、の、傳、ま、と、約、し、て、ゆ、ん、後、よ、宗、菴、ハ
 近年の、一、真、た、今、の、大、た、い、け、よ、と、後、能、と、よ、ら、う、て、又、
 塚、茂、明、友、ニ、三、ハ、と、ふ、ら、ひ、ま、ま、ま、一、段、つ、た、の、一、と、ハ
 け、う、り、と、て、余、を、周、が、痴、情、の、入、門、と、か、と、ま、ま、居、ま、ま、ハ
 赤、て、自、よ、入、ぬ、原、来、う、ら、考、一、群、ハ、酒、の、と、社、中、ま、れ、ハ
 庖、厨、より、佳、肴、と、求、る、よ、一、尾、の、河、豚、臭、を、た、つ、と、ハ
 来、ま、て、庖、丁、ま、一、皆、う、ち、ま、ど、り、て、笑、ひ、々、ハ、山、堂、が、引

け魚よ毒ありしと見え、忽ち驚くと呼びて
 とこそおぼひらるるらうらふ顔に四肢いらさねと
 一日は倒れぬ。下女奴僕ハ是にふどろ死せし
 者の家くよ若家宿が通家よきつせ人皆つとひ来
 て騒動しをきししと死骸と持ちつらぬ。ぬ余も情
 ハゆる事とハ知らず。おまひとそるかの扇の死に
 書とあまたびよかへ一再今し。翌日も朝し
 都よりて宗菴が夜一、衣類襦袢が托つり契給
 の時別と付らぬ。閨中の秘事を交べしと宗菴が
 室よ玉をば今や葬式と出さんとそるおまへへ

ちやーして、辻のこねとる。菜蔬うまろ店も
 やうを何間。眼叔宗菴が毒魚よとつて、換死の
 よいおて産と備し。おまひとそるよまど。急
 揚と。おまひの制度と相傳あり一人のがよ
 客とおつて。仇しおつ。猶と成んとい。嗚呼世は
 たりまほろしお似らうと歎息し。さて余も湯の
 ともたのそる。宗菴の愛死とげしうづいひせん
 万よ思ふとそせとせんをさし。とらばとてか
 魂がほろやしてけしお止さんも幸をさし。つら
 かりし。情系の長松下ハ。恒し健と蘭花をふりて

青楼の事なまばかの地よけて是と憑まんよらんこり
 けらいごる事やあらんと例くよ受し。まうあつへま
 たる。衣執取らうあつ。急ぎて家おふかひら。家
 まよとて。曆とひりきたりて。月の下とさく。あつ
 とらび。夜のとほ。お物をまらとに個のへ。こまはら
 へ積たる。黄金とふところおまうとぬめ。今い家
 菴が。仁まともうし。記性書。の扇る。取たづと。鴻
 系として出り。其風俗大よ。又換まま。付とま
 この人。とま。と。評判して。猿楽といひら。へるものも
 めま。外。返。間。う。と。又。ま。る。も。あ。う。て。は。く。は。い。ま。れ

ども余を働ハ取もかけず。た。廊の方よら。ろ。ど。
 狂おく長松下の門。辺。よ。いた。り。て。又。お。り。ひ。け。り。や。う。は。
 我平日。又。け。家。よ。ま。り。て。往。と。賣。く。ふ。か。く。お。お。て。
 之。お。び。と。せ。ん。と。い。と。ど。私。よ。兼。引。や。吾。や。と。ふ。と。ら。に
 位。と。り。を。出。て。少。時。た。ゆ。ら。う。ら。外。向。ら。う。ゆ。り。ま。ら。
 下男。又。と。づ。め。て。油。坊。ど。の。よ。し。い。ま。と。我。その。す。が。こ。い
 いう。小。と。向。に。う。ハ。ち。と。ま。ん。岩。へ。憑。や。う。と。ん。事。は。
 あ。う。て。推。系。お。り。たり。と。り。ま。ら。入。ま。と。て。い。ご。ぬ。ひ。け
 ま。ば。仲。居。等。ハ。客。人。と。い。は。い。ど。う。よ。を。出。て。見。ま。ど。
 廻。り。出。入。と。り。油。坊。が。又。や。う。お。る。お。お。と。ひ。か。い。ど。て

○十一
竹地への出なるやと。あやまを符の尾よけとして。余
周のりふ。ふる生涯のわたり。州ふけ花街の松位と。一
もとりたる。義致なまど。又は格式と。まうね。ま
へば。と。あうらと。まよ。て。憑まいらせん。が。た。る。ま
たりと。顔に汗と。まがし。面と。おくして。めんどん。と。た。る。鳥
笑と。と。大振るの。あ。お。と。ハ。け。い。から。ぬ。不。然。合。さ。え。累。して
は。愛。ゆ。り。風。類。と。や。り。に。らん。合。家。の。大。ぜ。い。号。集
おどけ。ま。ま。ど。い。ひ。交。へ。を。お。く。と。ま。り。の。う。て。一。日。に。ど。よ
り。と。笑。ひ。ん。
は。ら。る。巻。三。年

凡士農工商とも丈夫くの職分家業小依り持用の品物と云ふ
今日を言む支世上一般之然る小近世写本入巻中
物々白帛いもハ種々の書入又ハ形さハ莞束かき木偶人
式ハ見苦き男女の陰旗かど画き君臣父子の中ふて
面を赤め合支間々多ク一見し等ハ必竟一時の興小乗
の戯きもらん併其職分の道具ハ疵付か小儂る
者速枕く筆者の怒り古らば口言語を以て其過ちを
咎め毫中への戯画樂書ハ許し給へ諷諭多氏常小
を歎き怒下又深一曰て主代りて諸君子に依りて夏雨

武陽 正保述

